

# 2016年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード : 4572

- CDC7/ASKキナーゼ阻害薬に係る特許庁（日本）からの特許査定通知受領のお知らせ（1月）
- 米国サウスサンフランシスコに研究拠点「カルナバイオ C-Lab」を設立（2月）
- 岡山大学とiPS細胞由来がん幹細胞の創薬活用を目的とした共同研究契約を締結（3月）

# 第1四半期 連結経営成績の概況



- ✓売上高は、対前年同期比 32.6%減（対前期比108百万円減）
- ✓営業損益は、売上減ならびに研究開発費及びその他販管費増により114百万円の損失（対前期比213百万円の悪化）
- ✓当期純損益は、営業損益の悪化ならびに特別利益の計上等により 11百万円の損失（対前期比105百万円の悪化）

（単位：百万円）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2016年12月期第1四半期実績 (a)	225	△114	△121	△11
2015年12月期第1四半期実績 (b)	334	98	97	94
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△108	△213	△219	△105
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△32.6%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は当期においてそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(注3) 2016年12月期の創薬事業及び全社の計画値は公表しておりません。詳細は平成27年12月期決算短信をご参照ください。

# 第1四半期 事業別業績の概況



(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2016年12月期 第1四半期実績 (a)	225	—	225	76	△190	△114
2015年12月期 第1四半期実績 (b)	334	—	334	210	△111	98
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△108	—	△108	△133	△79	△213
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△32.6%	—	△32.6%	△63.5%	—	—
2016年12月期 通期計画 (d)	858			320		
通期計画に対する 進捗率 (a)/(d)	26.2%			24.0%		

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 創薬支援事業の2016年12月期通期計画値は、2016年2月12日発表の通期計画に基づいております。なお、創薬事業及び全社の計画値は公表しておりません。詳細は平成27年12月期決算短信をご参照ください。

# バランスシート状況 (連結)



(単位：百万円)

	2016年12月期 第1四半期末	2015年12月末	増減額	増減理由
流動資産	2,085	1,995	+89	
現金及び預金	1,805	1,624	+180	
その他	279	370	△91	売掛金△70等
固定資産	212	341	△129	クリスタルゲノミクス社株式売却及び評価増等
資産合計	2,297	2,337	△40	
流動負債	135	235	△100	未払金△36、未払法人税△33等
固定負債	187	231	△43	繰延税金負債△29、長期借入金△13等
負債合計	323	467	△143	
純資産合計	1,973	1,870	103	利益剰余金△11、資本金+92等
負債・純資産合計	2,297	2,337	△40	

自己資本比率	85.7%	79.7%
一株当たり純資産	215.79円	208.78円
PBR(株価純資産倍率)	16.15倍	13.04倍
(参考) 当社株価	3,485円	2,722円

(注) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づいております。

## <がん領域>

- CDC7阻害薬AS-141は前臨床段階にあり、各種GLP試験や、治験薬GMPに準拠した治験用原薬の合成などを実施しており、引き続き精力的に進めてまいります。
- 国立研究開発法人国立がん研究センターとの共同研究テーマであるTNIK阻害薬NCB-0846は、日本医療研究開発機構（AMED）が実施する創薬ブースター（創薬総合支援事業）の支援課題として、国立がん研究センターが中心となり前臨床試験を実施しています。
- 広島大学と白血病幹細胞を標的とした共同研究では、引き続き順調にリード化合物の最適化を行っております。

## <その他疾患領域>

- 北里大学と共同で実施している次世代抗マラリア薬の開発も、順調にリード化合物の最適化が進んでおります。
- その他の最適化段階にあるテーマに関しても、前臨床候補化合物を獲得するまでの探索研究段階にあり、リード化合物の最適化研究を着実に進め、創薬パイプラインの強化を図ってまいります。

## <導出活動>

- 当社創薬パイプラインを早期に大手製薬企業等へ導出することを基本方針として、引き続き、最大価値を生み出すべく、戦略的に導出交渉に取り組んでまいります。

## <C-Lab>

- 米国サウスサンフランシスコに新たに開設したC-Labでは、研究準備を始めており、従来にない全く新しいタイプの創薬の基礎となる研究を進めてまいります。

- ▶ 特定の顧客へのキナーゼに関する創薬基盤技術に基づくトータルソリューションの提供を押し進める。
- ▶ 北米地域における売上拡大を図る。
- ▶ キナーゼ蛋白質、特にビオチン化キナーゼ蛋白質の売上拡大に注力する。
- ▶ 国内外の代理店網の再構築を図る。
- ▶ ProbeXのスプリットルシフェラーゼ技術の応用に基づく創薬支援ビジネスの拡大を図る。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀の初めに、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

## カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。